

学習者のニーズに沿った学びを充実

大阪教育大学 連合教職大学院

 大阪教育大学  近畿大学



これからの
教員を。

子どもの
未来を、

POINT 1

学習者のニーズに沿った学びに対応

修了要件の多くの科目が同時双方向・オンデマンド等のオンライン授業(対面開講とのハイブリッド展開も含む)に対応しているため、対面でもオンラインでも、個人の状況に合わせた履修が可能です。

修了要件(令和9年度～)

科目名	単位数
研究科共通科目 (共通5領域科目・フラッグシップ大学特例領域科目)	18
学校実習科目	10
課題研究科目	4
専攻専門科目(プログラム科目)	14

■ ストマス等院生(学部卒院生)のニーズに応じて

- ・同一授業を昼間・夜間で開講しており、昼間は対面を基本とし、夜間はオンラインでも受講できます。
- ・夜間履修により現職教員院生と共に学ぶことができます。
- ・学校現場の実践的知見に触れながら学修を進められます。

※学校実習は昼間に実施します。

※「ストマス等院生」とは、大学院入学時に学部新卒の者であるストレートマスター(ストマス)、任期のある常勤・非常勤の教員、学校園等の教員経験者、社会人や社会人経験者に当てはまる院生のこと。入試区分で「現職教員等以外」とされている者。

■ 現職教員院生のニーズに応じて

- ・勤務を続けながら大学院で学べます。
- ・夜間はオンラインで受講でき、通学のための移動を必要としません。
- ・全国どこからでも履修可能です。
- ・オンライン参加のみで修了要件を満たすことが可能です(学校実習科目等一部の科目を除く)。

※原則、学校実習は昼間に勤務校園等で実施します(大学院修学休業制度等の利用者を除く)。

POINT 2

フラッグシップ大学特例領域科目

教員養成フラッグシップ大学の指定を受けたことによる「教職大学院の共通5領域※の必修単位数の弾力措置」を活用した独自の領域・科目を設定しています。日本の未来の教育を創造していくためのカリキュラムにより幅広い学びのニーズに応えます。

領域	科目名
教育DX・STEAM実践に関する領域	教育におけるDXとSTEAMの理論と実践 I・II
教育グローバル人材の育成に関する領域	グローバルスタディーズの展開 I・II
多職種協働による組織マネジメントに関する領域	多職種協働による組織マネジメント I・II 社会的包摂に関する実践的探究 I・II
	子どもの貧困及び児童虐待の理解と教育実践 I・II
ダイバーシティの理解に関する領域	外国にルーツのある子どもの教育 I・II インクルーシブ教育の理論と実践 I・II インクルーシブ教育の実現に向けた子どものアセスメントと支援 I・II 通常学級におけるインクルーシブ教育の実践 I・II

※共通5領域：教職大学院において共通に開設すべき「教育課程の編成及び実施に関する領域」「教科等の実践的な指導方法に関する領域」「生徒指導及び教育相談に関する領域」「学級経営及び学校経営に関する領域」「学校教育と教員の在り方に関する領域」からなる5領域(計10単位)を設定しており、教職大学院生はすべての領域にわたり履修する必要があります。

POINT 3

修学モデルケース
【対面・オンライン両方で受講する場合】



現職教員院生(M2)
(大阪教育大学卒)
金子 瑛さんの場合
勤務先/
大阪教育大学附属天王寺小学校

「専門性があれば、この子の発言を際立たせられるのだろうか。」

物語文を扱った国語科の授業中、児童の発言を受けて、ふと、こう思ったことが教職大学院をめざしたきっかけでした。それからは、児童の言動の捉え方、発問の内容やタイミング、授業・単元を通して育みたい力…。問題は山積みでしたが、打開策が見当たりません。

迷いのある立ち振る舞いでは、到底、児童の底知れぬ力を生かすことなどできませんでした。漠然とした悩みを抱えた私は、教職大学院の門を叩きました。

職場の理解ある先生方の支えにより、私は授業の多くを対面で受けることができました。大学から進学してきた院生、他校種の現職の院生、教育委員会に勤めている院生。多様な同級生や専門性の高い大学の先生方のお話、その場で生まれる新たなアイデアは、まさに宝の山です。

自分を知り、課題を見つけ、明日からの教育を考えるために、教職大学院で共に学びませんか？

前期第1ターム(4月～6月上旬)		※6限 18:00～19:30、7限 19:40～21:10				
	月	火	水	木	金	土
8:00 ～ 17:00	勤務 ※自ら設定するテーマに基づく取組に従事している時間は「学校実習」の実習時間にカウント					
17:00	実践課題研究I受講 (同時双方向型オンライン)	勤務先からの移動、夕食	勤務先からの移動、夕食		勤務先からの移動、夕食	家事・レポートの 作成・読書・担当教員が主催の学習会 に参加(月1)
18:00	研 必 学習指導の実践的展開 オンライン授業 (オンデマンド型)	必 教育実践の研究方法 対面授業	研 選必 インクルーシブ教育の 理論と実践 時間外・ オンデマンド型授業	勤務先からの移動、 夕食・レポート作成・ 読書	研 必 生徒指導と教育相談の 実践的課題 対面授業	
19:30						
19:40	研 必 学習指導の実践的展開 対面授業	必 教育実践の研究方法 対面授業			研 必 生徒指導と教育相談の 実践的課題 対面授業	
21:10						

前期第2ターム(6月上旬～8月上旬)		※6限 18:00～19:30、7限 19:40～21:10				
	月	火	水	木	金	土
8:00 ～ 17:00	勤務 ※自ら設定するテーマに基づく取組に従事している時間は「学校実習」の実習時間にカウント					
17:00		勤務先からの移動、夕食	勤務先からの移動、夕食			家事・レポートの 作成・読書・担当教員が主催の学習会 に参加(月1)
18:00	勤務先からの移動、夕食 実践課題研究I受講(同時双方向型オンライン)	研 必 学校経営と学級経営の 理論と実践 対面授業	研 必 教育におけるDXと STEAMの理論と実践 オンライン授業 (オンデマンド型)	勤務先からの移動、 夕食・レポート作成・ 読書	勤務先からの移動、 夕食・レポート作成・ 読書	
19:30						
19:40	選 高度授業研究 [芸術書道] 対面授業	研 必 学校経営と学級経営の 理論と実践 対面授業	研 必 教育におけるDXと STEAMの理論と実践 対面授業			
21:10						

※天王寺キャンパスを修学キャンパスとした教育実践力コースの令和7年度前期タームをモデルケースとしています。

※令和9年度より、科目等に変更があります。

※同時双方向型やオンデマンド型(同時双方向型の録画事後公開等)のいずれを実施するか、または両方を実施するかは科目によります。

※オンライン(オンデマンド型)で行う授業は当日の受講に限らず、数日から1週間程度の期間中の自分自身の都合の良い時間帯での受講が可能です。

※週によって授業形態が異なる可能性があります。

※オンライン授業(同時双方向型)で行う授業について、学校実習の学校園や勤務校園等での諸活動の都合による遅刻や欠席が生じる場合、事前に授業担当教員に申し出を行うことにより、該当する授業の録画を事後視聴することができる場合もあります。録画した授業の視聴や代替課題の提出等の要件を満たした場合、当該回を出席相当とみなします。

※モデルケースにおける「研」は研究科共通科目、「必」は必修科目、「選必」は選択必修科目のことです。

》 教職大学院の目的

教職生活全体における高度かつ実践的な教員養成のための専門職大学院

教員の養成・採用・研修等を通じて、教員が教職生活全体の職能成長を実現する環境づくりが進められており、教職大学院は高度専門職業人養成に特化した大学院として、全国に設置されています。

学部段階の資質能力を基盤に深い教職専門性と実践的指導力を兼ね備える新人教員を養成

教員養成系大学あるいはその他の大学の学部新卒者に、それぞれの特色を生かした資質能力にさらなる教職専門性と学校現場に即応できる実践的指導力を培い、学校の有力な一員となる新人教員を養成します。

学校の組織的課題・子どもの教育課題に応じた教育実践力や指導的役割を發揮する現職教員を養成

多様で複雑化する学校の組織的課題や子どもの教育課題を適切にとらえ、それらの課題解決をめざす確かな教育実践の展開に指導的役割を果たすことができる、学校の中核となる教員を養成します。

現代的な教育課題

- 新たな教育課程・授業方法の創出
- 子どもの育ちに関わる課題の解決 (いじめ・不登校・児童虐待等)
- 学習指導要領の改訂に応じた教育活動の展開
- ICTを用いた指導法の充実
- 「チーム学校」の実現
- 個々の子どもに応じた指導・支援の充実 など

求められる教員の資質能力

- 自律的に学ぶ姿勢や意欲
- 学校内外の組織や専門家とチームで連携・協働する力
- 価値を見つけ出す感性や探究心
- 各自自治体の教員育成指標で求められる資質能力
- 知識や経験を有機的に結びつけて構造化する力
- 現代的な教育課題に対応する力 など

養成する人材像

- 自ら学び続ける教員
- チームで課題解決をめざす教員
- 教職・教科等の高度な専門的知識や技能を有する教員
- 地域の組織や専門家と連携・協働する教員
- 学級経営・生徒指導・教育相談等を適切に実践できる教員
- 学校経営及び教育行政のリーダー

》 修了要件

専門職学位課程に2年以上在学し、所定の科目を46単位以上修得することを要件としています。

科目名	単位数	内容
研究科共通科目 (共通5領域科目・フラッグシップ大学特例領域科目)	18	共通5領域科目では「カリキュラムの編成原理とマネジメント」「学習指導の実践的展開」「生徒指導と教育相談の実践的課題」「学校経営と学級経営の理論と実践」「学校安全と人権を核にした教師力・学校力の創造」を必修科目とします。フラッグシップ大学特例領域科目では「教育におけるDXとSTEAMの理論と実践I」「グローバルスタディーズの展開I」「多職種協働による組織マネジメントI」を必修科目とし、それぞれの「II」のうち1科目を選択必修科目とします。選択科目としては、選択必修の残り2科目の他「社会的包摂に関する実践的探究I・II」「子どもの貧困及び児童虐待の理解と教育実践I・II」「外国にルーツのある子どもの教育I・II」「インクルーシブ教育の理論と実践I・II」等を設定しており、合計18単位を修得します。
学校実習科目	10	「基本学校実習I・II」「発展課題実習I・II」の計4科目10単位を修得します。特別支援学校で学校実習を行う場合は、「基本学校実習Ⅲ・Ⅳ(特別支援)」「発展課題実習Ⅲ・Ⅳ(特別支援)」を履修します。
課題研究科目	4	入学時から明確な意図と達成目標を持った研究テーマを設定して、課題解決に向けた実践的探究を進めます。「実践研究基礎」「実践課題研究I・II」の計3科目4単位を修得します。
専攻専門科目 (プログラム科目)	14	自身の学修ニーズや育成段階を踏まえ、専攻専門科目(プログラム科目)を履修します。プログラムを構成する全ての授業の単位を修得したり、多岐に渡るプログラムから自らの関心に合致した授業を選択履修したりすることができます。

》 学位

「教職修士(専門職)」の学位が授与されます。

》 取得できる免許状

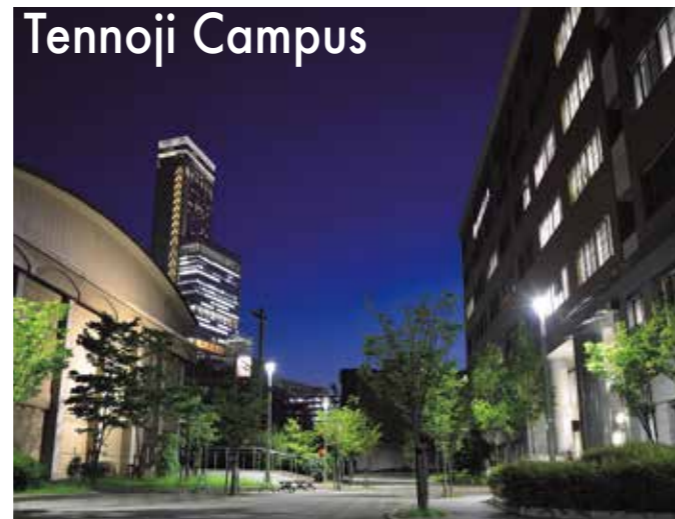
取得しようとする免許状の一種免許状を修了年度に有していることが必要です。

- 幼稚園教諭専修免許状
- 小学校教諭専修免許状
- 中学校教諭専修免許状
(国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、保健、技術、家庭、職業、職業指導、英語、フランス語、ドイツ語、中国語、宗教)
- 高等学校教諭専修免許状
(国語、地理歴史、公民、数学、理科、音楽、美術、工芸、書道、保健体育、保健、看護、家庭、情報、農業、工業、商業、水産、福祉、商船、職業指導、英語、フランス語、ドイツ語、中国語、宗教)
- 養護教諭専修免許状
- 特別支援学校教諭専修免許状
(視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱の内、既に取得している一種免許状に記されている障害領域が専修免許となる)
※特別支援教育に関する専修免許の取得には、一定の条件を満たす必要があります。

》 主な修学時間帯及びキャンパスについて

- 教職大学院生は、自身で<昼間><夜間>の修学時間帯を選択します。
- 平日及び土曜日の1限から7限までに開講されている授業科目、長期休業中に開講される集中講義等から履修する科目を選択することができます。
- 多くの授業が同時双方向・オンデマンド等のオンライン授業(対面開講とのハイブリッド展開も含む)に対応しており、昼間に実習校園等で実施する学校実習科目以外の授業を、オンラインのみで単位修得することが可能です。
- 同一授業を昼間・夜間で開講しており、昼間は対面が基本であり、夜間は対面だけでなくオンラインでも受講できます。

昼間授業	夜間授業	集中講義
1～5限 (8時50分～17時55分) 主に対面授業 柏原キャンパスで開講	6・7限 (18時00分～21時10分) 主に天王寺キャンパスで 対面とオンラインのハイブリッド授業を開講 オンラインのみの授業を一部開講	長期休業中や不定時に 開講される授業 開講時期・開講場所は、 シラバスに記載



● 昼間授業

1 時限	2 時限	3 時限	4 時限	5 時限
8:50 ~ 10:20	10:35 ~ 12:05	12:55 ~ 14:25	14:40 ~ 16:10	16:25 ~ 17:55

● 夜間授業

6 時限	7 時限
18:00 ~ 19:30	19:40 ~ 21:10

》 授 業

教職に求められる実践的指導力を向上させるカリキュラム

大阪府・大阪市・堺市の各教育委員会が掲げる教員育成指標と対応させたディプロマ・ポリシー(学位授与方針)を設定しています。つまり、学校現場で求められる理論や実践動向を科目の中で体系的に学び、学校実習でそれを実践しながら、実践的指導力を高めていける環境があります。また、全ての教職大学院生が共通に履修する研究科共通必修科目は、研究者教員と実務家教員のタッグによるチームティーチングにより授業を展開し、理論と実践の往還の一助となります。

優れた大学教員による確かな指導

150名におよぶ大学教員が全学的な協体制のもと、教職大学院生の指導・支援を行います。研究者教員は、それぞれの専門分野の学術研究に関して数多くの業績を有し、中には、学校現場や教育行政との共同プロジェクト等の豊富な経験を有している教員もいます。また、学校や教育行政に長く勤務し、教育課題の解決に尽力してきた実務家教員は、教職大学院生にとってのよき教職モデルです。これらの優れた教員による確かな指導によって、実践力や探究力等を高めていきます。



プログラム科目の組み合わせで自分の学びをカスタマイズ

学修ニーズの多様化に対応するため、「プログラム」を開発しています。専攻専門科目(プログラム科目)で構成されるプログラムにより、教職大学院生が自分に合った学びをカスタマイズすることができます。

PROGRAM プログラム

教科別科目 (国語・英語・家庭・技術・数学・理科・道徳・音楽・書道・保健体育・社会・美術)	小学校指導	総合教育指導	現代的指導
生徒指導・教育相談	発達支援	就学前教育・支援	健康課題対応
特別支援教育	スクールリーダー	教育行政・指導主事	ミドルリーダー
カリキュラムマネジメント	教育実践研究方法	博士課程接続	

※プログラムは変更になる場合があります。

- プログラムは、必ず選択しなければならないものではありません。
- プログラムに含まれる一部の科目を選択して受講することも可能。
- 原則として、全科目がオンライン授業(一部科目を除く)に対応しており、柔軟に受講することが可能。
- 科目によっては、基礎科目と応用科目に分かれており、興味・関心や自身のスキルに応じて履修することが可能。
- 教職経験年数を問わずストレートマスターから経験豊富な教員まで、多様な学びを選択することができ、個々の状況に合わせたきめ細やかな指導を受けることが可能。

大学院のキャンパスと学校現場をフィールドとした学び

理論と実践の往還・融合

教職大学院生が設定した課題の解決に向け、授業における理論的な学びと、2年間を通じて実施する学校実習における実践的な学びとの往還を繰り返し、実践課題研究に取り組むことで、教職に求められる実践的指導力を高めていくよう、カリキュラムを構築しています。

指導体制

教職大学院生には、クラス担任、主指導教員・副指導教員が割り当てられ、研究者教員と実務家教員、教職専門系教員と教科専門系教員といった、複数の視点で大学院生活を指導・支援する体制を用意しています。



[理論と実践の往還・融合]

実践課題研究

課題研究科目として、実践研究基礎、実践課題研究Ⅰ・Ⅱの計4単位を修得し、実践課題研究報告書としてまとめ、研究発表を行います。実践課題研究は、学校実習と関連させ、学びの成果を整理しながら、実践的な研究課題に対する問題意識とそれに対する取組について研究的に探究します。実践研究の過程においては、課題解決のプロセスをR-PDCAサイクルに基づいて自己点検・評価することが重要です。また、実習校等とのスタッフとのコミュニケーションの中で取り組むことも必要です。このようなプロセスを通して、自らの研究課題の解決能力の向上、学校園や地域が抱える教育課題の解決・改善への貢献をめざしています。

実践課題研究のテーマ例	
ストラス等 院生	土石流災害を題材とした防壁設計学習におけるエンジニアリングプロセスと教科等横断的な学びの深化
	中学校数学科における批判的思考を促すための錯視図形を用いた教材開発
	運動有能感向上を意図した体育授業におけるAIの活用 — 中学2年生のサッカー単元における実践 —
現職教員 院生	身体アライメントの気づきを基盤としたダンス活動の構築と動画教材開発 — 特別支援学校自立活動の実践から —
	小学校における教務主任が推進する組織的な初任者指導 — 学年主任・研究部長・メンター教員との連携を通して —
	小学校国語科における「社会性と情動の学習 (SEL)」の実践 — 対人関係の向上をめざして —
	総合的な学習の時間のデザインと実践を通して教師はどのように成長するか — 6名の教員の力量形成過程についてのアクション・リサーチ —
	ミドルリーダーシップを媒介とした校務分掌改善と組織活性化 — 特別支援学校におけるコッター変革モデルによる分析 —



実践課題研究発表会



リフレクション・ミーティング



全体報告会

学校実習

学校実習の主な目的は、学部教育実習とは異なり、教員免許状を所持する教職大学院生が高度な実践力を備え、教職力量を形成・向上させることです。実際の学校教育活動(保育活動)に参画しながら、自ら設定するテーマについて理論と実践の往還・融合を図り、学校園等の諸課題の解決や改善の提案及び幼児・児童・生徒の資質・能力の育成など学校教育に貢献することをめざします。

教職大学院入学時に学部卒で教員経験の少ない教職大学院生も、教員としての基礎的理解をふまえ、自らの実践を省察し、高度化させ、職能の成長をめざします。

時期	科目名	時間数	単位数	実習先
1 年次	前期 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅲ(特別支援)	60時間以上	2単位	勤務校園等での実習 : 勤務しながら教職大学院で学修する現職教員院生は、原則として自身の勤務校園等において学校実習を行います。 配当校での実習 : 休業制度等を利用し勤務校園等を離れ教職大学院で学修する現職教員院生や、学部卒院生は原則として配当校で学校実習を行います。 <small>※配当校は、原則として、学校実習を受け入れていただける大阪府内の連携協力校から、複数の要件・情報をもとにマッチングします。</small>
	後期 基本学校実習Ⅱ 基本学校実習Ⅳ(特別支援)	60時間以上	2単位	
2 年次	前期 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅲ(特別支援)	90時間以上	3単位	
	後期 発展課題実習Ⅱ 発展課題実習Ⅳ(特別支援)	90時間以上	3単位	

【ストラス等院生】

- 常勤講師として勤務しながら在籍するストラス等院生については、現職教員院生に準じるものとし、実習計画書を連合教職実践研究科(以下「連合研究科」という。)で確認後、了承された場合、勤務校園等において勤務時間内の一部を学校実習の時間数に充当できます。
- 非常勤講師として勤務しながら在籍するストラス等院生については、勤務校園等において勤務時間内の一部を学校実習の時間数に充当できます。ただし、充当できる学校実習の時間数は、基本学校実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳについては各30時間、発展課題実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳについては各45時間を上限とします。

※基本学校実習の履修免除の対象にはなりません。

【現職教員院生】

主に、学校園に原籍がある現職教員院生、及び教育委員会・教育センター等に勤務する現職教員院生については、基本学校実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ(M1開講)は、原則、履修免除とします。ただし、現職教員院生が勤務校園等において、基本学校実習Ⅱ・Ⅳの受講を希望する場合は、履修を妨げません。なお、免除された基本学校実習の単位は、修了要件単位の「認定」として取り扱います。

※申請後、免除相当の確認がなされます。

現職教員院生	基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅲ(特別支援)	基本学校実習Ⅱ 基本学校実習Ⅳ(特別支援)	発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅲ(特別支援)	発展課題実習Ⅱ 発展課題実習Ⅳ(特別支援)
	免除	選択	必修	必修

【リフレクション・ミーティング】

リフレクション・ミーティング(RM)とは、学校実習での取組を振り返る機会や、発表を通して他者とその内容を共有して学ぶ場を意味します。RMには下のような種類があります。

名称	実施時期	実習内容
個別 RM	随時	<ul style="list-style-type: none"> 大学院指導教員が実習校園等を訪問し、教職大学院生の学修状況を確認しながら指導・助言する。必要に応じて実習校園等の指導者や教職員とも振り返りの機会を設定する。 主指導教員が、大学院で個別・ゼミ形式で指導・助言する。
グループ RM	8月及び 2月	<ul style="list-style-type: none"> 学校実習での取組について発表し、教職大学院生間で相互に交流するとともに、副指導教員や大学院の関係教員から助言を受ける。 参加者との質疑応答、意見交換等をする。
全体報告会	2～3月	<ul style="list-style-type: none"> 代表の教職大学院生が、学校実習の取組に関して発表する。

授業科目一覧

教員養成フラッグシップ大学指定による単位の修得方法に関する特例を用いた研究科共通科目「フラッグシップ大学特例領域科目」を設置し、幅広い学びのニーズに応えます。 ※科目の名称等は変更になる可能性があります。

研究科共通科目

科目区分	授業科目の名称	
共通5領域科目	教育課程の編成及び実施に関する領域	カリキュラムの編成原理とマネジメント
	教科等の実践的な指導法に関する領域	学習指導の実践的展開
	生徒指導及び教育相談に関する領域	生徒指導と教育相談の実践的課題
	学級経営及び学校経営に関する領域	学校経営と学級経営の理論と実践
	学校教育と教員の在り方に関する領域	学校安全と人権を核にした教師力・学校力の創造
フラッグシップ大学特例領域科目	教育DX・STEAM実践に関する領域	教育におけるDXとSTEAMの理論と実践 I・II
	教育グローバル人材の育成に関する領域	グローバルスタディーズの展開 I・II
	多職種協働による組織マネジメントに関する領域	多職種協働による組織マネジメント I・II
	ダイバーシティの理解に関する領域	社会的包摂に関する実践的探究 I・II
		子どもの貧困及び児童虐待の理解と教育実践 I・II
		外国にルーツのある子どもの教育 I・II
インクルーシブ教育の理論と実践 I・II		
インクルーシブ教育の実現に向けた子どものアセスメントと支援 I・II		
通常学級におけるインクルーシブ教育の実践 I・II		

学校実習科目

授業科目の名称			
基本学校実習 I	基本学校実習 II	発展課題実習 I	発展課題実習 II
基本学校実習 III(特別支援)	基本学校実習 IV(特別支援)	発展課題実習 III(特別支援)	発展課題実習 IV(特別支援)

課題研究科目

授業科目の名称
実践研究基礎
実践課題研究 I
実践課題研究 II

専攻専門科目(プログラム科目)

授業科目の名称		
学校安全と危機管理	人権教育の課題と実践	臨床的研究法入門 I・II
臨床教育学入門	臨床発達教育科学入門	教職キャリア形成
スクールリーダーシップの理論と実践	学校改善のためのアクションリサーチ	学校における人材育成の理論と実践
スクールリーダーのマネジメント	校内研修の持続的発展	学校組織開発
学校に対するコンサルテーション	チーム学校の実践的展開	授業におけるICT活用の理論と実際
学校におけるコーディネーション	メディア・情報リテラシー教育の実践的展開	子どもの発達を踏まえた生徒指導の組織的展開
新しい時代の教育政策と学校経営 I・II	スクールイノベーション論	援助の理論と協働的援助
保護者との協働的援助	児童生徒の発達と子どもの援助ニーズ	学校現場における子どもの心理的援助ニーズ
就学前の子どもの援助のための政策・システム	予防的な関わりと協働的援助	就学前の援助ニーズへの多様な支援
学校危機における援助ニーズ	エビデンスに基づく行動支援	障がいや健康課題のある子どもの援助ニーズ
教員のための応急処置の基礎と実践	メンタルヘルス課題の理解	学校経営における学校保健及び保健室のマネジメント
共生社会をめざした協働的援助	教育実践の研究手法	教育評価の理論と実践
探究学習の開発と実践	特別なニーズのある子どもの心理的理解と支援	特別支援教育の教育課程と授業論
特別なニーズのある子どもの臨床	インクルーシブ教育の理論と実際	特別支援教育の現代的課題
特別支援教育コーディネーター論	発達支援教育実践論	特別なニーズのある子どもの生理と病理
教育相談支援の理論と実際	発達障がいのある子どもの理解と支援	

授業研究

[小学校国語]/[小学校英語]/[小学校音楽]/[中高国語]/[中高英語]/[中高理科]/[中高音楽]/[算数]/[数学]/[社会科]/[家庭科]/[技術]/[体育・保健体育]/[道徳]/[書写]/[美術]/[身体と表現 カリキュラムデザイン]

教材・題材開発研究

[小学校理科 生命・地球]/[小学校理科 エネルギー・粒子]/[中高理科 物理・化学]/[中高理科 生物・地学]/[英語論理・表現]/[国語科]/[算数・数学]/[代数・幾何]/[解析・確率]/[地理]/[歴史]/[公民]/[家庭科]/[道徳]/[体育・保健体育 I・II]/[音楽学]/[書鑑賞]/[声楽]/[技術・情報]/[ものづくり]/[技術 エネルギー変換(電気)]/[技術 材料と加工]/[ピアノ演奏法・伴奏法]/[芸術文化理解]/[創造と表現]/[消費者教育]/[特別活動]/[教育と想像力]/[コミュニケーション・コンピテンシー]/[ICT活用]

高度授業研究

[小学校英語]/[小学校国語]/[小学校音楽]/[中高国語]/[中高理科]/[中高音楽]/[数学]/[社会科]/[家庭科]/[体育・保健体育]/[道徳]/[総合的な学習の時間]/[身体と表現 カリキュラムデザイン]/[芸術書道]/[美術]

高度教科内容研究

[中高理科 化学]/[中高理科 物理]/[中高理科 生物]/[中高理科 地学]/[国語科 言語表現]/[国語科 言語文化]/[英語科]/[英語コミュニケーション]/[算数・数学]/[代数・幾何]/[解析・確率]/[地理歴史]/[公民]/[道徳]/[家庭科]/[ものづくり]/[技術]/[消費者教育]/[体育・保健体育]/[他地域教育実践]/[ピアノ演奏法・伴奏法]/[芸術文化理解]/[創造と表現]

カリキュラムについては
こちらから



プログラムによる履修例

関心に基づく研究課題の設定や教職力量の向上に向けたプログラムを主体的に選択することにより、得意分野に磨きをかけて学び続ける教員として学校現場をリードしたり、理論と実践の往還を実現したりすることができます。

めざす人材像別におすすめプログラムの概要を紹介します。

▶ 教科指導の高度化と授業改善をリードする教員

- 教科指導のエキスパートとして、校内研修や地域での授業研究をリードする存在
- 初任時から安定した授業ができる即戦力の小・中・高等学校教員

をめざしたい!

◎例えば

〈こんな悩み・思いはありませんか?〉

- 毎日の授業が「教科書を教える」だけになり、深みがないと感じている。
- 子どもの「なぜ?」を引き出す発問や教材開発が苦手だと感じている。
- ICTを使っても、既存の授業の置き換えにしかっていない。
- 研究授業で、理論的背景に基づいた説得力のある提案をしたい。
- 小学校の各教科を上手く指導できるか不安がある。

解決するにはどんなプログラムを履修したらよいか?

◎提案

おすすめプログラム(例)

- 教科別科目プログラム
(国語・英語・家庭・技術・数学・理科・道徳・音楽・書道・保健体育・社会・美術)
- 現代的指導プログラム

主な履修科目(例)

- 授業研究[小・中・高の各教科]
- 教材・題材開発研究[各教科]
- 高度授業研究[各教科]
- 授業におけるICT活用の理論と実際
- 探究学習の開発と実践

※プログラム名・科目名は今後、変更の可能性があります。

▶ 充実した学級経営を行う教員

- 初任時から安定した学級経営ができる即戦力の小・中・高等学校教員
- 子どもたちが安心して過ごせる居場所をつくり、信頼される担任

〈こんな悩み・思いはありませんか?〉

- 教育実習だけでは、学級経営に自信が持てない。
- 子どもとの関係づくりについて、体系的に学びたい。
- 発達障がいのある子どもも含めて、多様な子どもがいることを前提とした学級経営ができるようになりたい。
- 保護者との信頼関係の構築について学びたい。

おすすめプログラム(例)

- 生徒指導・教育相談プログラム
- 発達支援プログラム

主な履修科目(例)

- 援助の理論と協働的援助
- 発達障がいのある子どもの理解と支援
- 共生社会をめざした協働的援助
- 保護者との協働的援助

▶ 組織的な生徒指導とチーム支援を推進する教員

- 生徒指導主事や教育相談のエキスパートとして、スクールカウンセラー(SC)やスクールソーシャルワーカー(SSW)と連携しながら、学校全体の生徒指導体制を構築できる教員

〈こんな悩み・思いはありませんか?〉

- 不登校やいじめの対応が、場当たりの「対症療法」になっていると感じている。
- 保護者対応や関係諸機関との連携に難しさを感じている。
- 学級経営に行き詰まりを感じている。
- 組織的な生徒指導のあり方を学びたい。
- 子どもの心理・背景を理解し、発達支持的生徒指導を進めていきたい。

おすすめプログラム(例)

- 生徒指導・教育相談プログラム

主な履修科目(例)

- 子どもの発達を踏まえた生徒指導の組織的展開
- 援助の理論と協働的援助
- 学校危機における援助ニーズ
- エビデンスに基づく行動支援

※本学教職大学院は、学校心理士の資格認定審査申請に対応

▶ 障がいのある子どもに対する高い専門性をもつ教員

- 特別支援学校や特別支援学級での実践はもちろん、地域のセンター的機能としての役割や校内支援体制の要として活躍

〈こんな悩み・思いはありませんか?〉

- 通常学級に在籍する、発達障がいのある子どもへの支援に迷っている。
- 特別なニーズのある子どもを含め、多様な子どもに対応できる授業づくりを学びたい。
- 特別支援教育コーディネーターとして、自立活動の指導法や専門的な知識・スキルを身につけたい。
- 特別支援学校・学級の教員として、重複障がいや障がい種別(視覚障がい・聴覚障がい・知的障がい・肢体不自由・病弱・発達障がい)の専門性の高い支援を身につけたい。
- 特別支援学校におけるキャリア教育・職業訓練について学びたい。

おすすめプログラム(例)

- 発達支援プログラム
- 特別支援教育プログラム

主な履修科目(例)

- 発達障がいのある子どもの理解と支援
- 特別支援教育の教育課程と授業論
- 特別支援教育コーディネーター論
- 特別支援教育の現代的課題
- 特別なニーズのある子どもの心理的理解と支援

※特別支援学校教諭専修免許状の取得希望者は、特別支援学校教諭一種免許状を保持していること、また、所定の単位の修得と特別支援学校での実習が必須。

▶ 教育DXや探究的・教科等横断的な学びの実現を推進する教員

■学校のDX推進リーダーとして、教科等横断的なプロジェクト学習やSTEAM教育を牽引する存在

〈こんな悩み・思いはありませんか？〉

- 授業中のタブレット端末の活用方法について、もっと深めたい。
- 「総合的な学習(探究)」のカリキュラム設計が難しい。
- STEAM教育やデータ駆動型教育など、最新の教育の潮流を学びたい。
- メディア・情報リテラシー教育を学校全体で推進したい。

おすすめプログラム(例)

- 現代的指導プログラム
- 総合教育指導プログラム

主な履修科目(例)

- 授業におけるICT活用の理論と実際
- メディア・情報リテラシー教育の実践的展開
- 教材・題材開発研究[ICT教育]
- 探究学習の開発と実践
- 高度授業研究[総合的な学習の時間]

▶ 学校の組織的改善を牽引するミドルリーダー

■同僚教員の成長を支援し、管理職と教職員のパイプ役となる主幹教諭(首席)
■指導教諭として、学校改善を推進するキーパーソン

〈こんな悩み・思いはありませんか？〉

- 後輩教員の指導(OJT)やメンター役を任されたが、どのように関わればよいか悩んでいる。
- 学年主任や教務主任として、組織をまとめる調整力を高めたい。
- カリキュラム・マネジメントを具体的にどう進めればよいか知りたい。
- 職員室のコミュニケーションを活性化させ、学校改善につなげたい。

おすすめプログラム(例)

- ミドルリーダープログラム
- カリキュラムマネジメントプログラム

主な履修科目(例)

- 学校における人材育成の理論と実際
- 校内研修の持続的発展
- チーム学校の実践的展開
- 教育評価の理論と実践

▶ 魅力ある学校づくりを主導する管理職

■確かなビジョンとマネジメント能力を兼ね備えた学校管理職
■「開かれた学校づくり」を進めるリーダー

〈こんな悩み・思いはありませんか？〉

- 校長・教頭として、魅力ある学校づくりをどのように進めたらよいか学びたい。
- 教育法規や制度、財務など、学校経営に必要な知識を体系的に身につけたい。
- 地域や保護者と連携した「開かれた学校づくり」を進めたい。

おすすめプログラム(例)

- スクールリーダープログラム

主な履修科目(例)

- スクールリーダーシップの理論と実際
- スクールリーダーのマネジメント
- 学校安全と危機管理
- チーム学校の実践的展開

▶ 学校現場と伴走して教育施策の具現化を促す指導主事

■教育行政を担う指導主事として、学校現場の課題に寄り添い、地域全体の教育の質向上に貢献するリーダー

〈こんな悩み・思いはありませんか？〉

- 指導主事として、学校のめざす姿の実現に向けて伴走する力を高めたい。
- 教育政策の背景や意図を深く理解し、現場に浸透させたい。
- 学校へのコンサルテーションや、研修講師としてのスキルを磨きたい。

おすすめプログラム(例)

- 教育行政・指導主事プログラム
- スクールリーダープログラム

主な履修科目(例)

- 新しい時代の教育政策と学校
- 学校に対するコンサルテーション
- スクールリーダーシップの理論と実践

▶ 就学前教育の質の向上と小学校への円滑な接続を進める幼稚園教諭

■就学前教育の質の向上を牽引するリーダーとして、発達支援の専門性を持ち、保護者支援や幼小連携のコーディネーターとして活躍

〈こんな悩み・思いはありませんか？〉

- 幼稚園・認定こども園における「気になる子」への早期支援や、保護者への伝え方に悩んでいる。
- 小学校との接続(小1プロブレム)をスムーズにする幼小連携のあり方を学びたい。
- 園のリーダーとして、組織マネジメントや人材育成の視点を身につけ、就学前教育の質の向上に繋げたい。

おすすめプログラム(例)

- 就学前教育・支援プログラム
- 発達支援プログラム

主な履修科目(例)

- 就学前の子どもの援助のための政策・システム
- 就学前の援助ニーズへの多様な支援
- 児童生徒の発達と子どもの援助ニーズ
- 発達障がいのある子どもの理解と支援

▶ 子どもの健康支援をコーディネートする養護教諭

■養護教諭として保健室を拠点に、学校保健だけでなく生徒指導や教育相談などに関するチーム支援をコーディネートする存在
■学校内外の関係者と連携・協働し、学校全体ですべての子どもの健康支援を推進するリーダー

〈こんな悩み・思いはありませんか？〉

- 現代的健康課題が複雑化しており、養護教諭としての専門性を磨きたい。
- 保健室を拠点とする養護実践はもちろん、生徒指導や教育相談、発達支援のためのチーム支援をしたい。
- 経験豊富な養護教諭として、学校園のミドルリーダーになる力を高めたい。

おすすめプログラム(例)

- 健康課題対応プログラム
- 生徒指導・教育相談プログラム
- ミドルリーダープログラム

主な履修科目(例)

- 学校経営における学校保健及び保健室のマネジメント
- メンタルヘルス課題の理解
- 学校における人材育成の理論と実際
- 保護者との協働的援助

教職大学院生共通

オンライン授業科目の拡充

教職大学院生が学びやすい環境を整えるため、学校実習科目等の一部科目を除くほとんどの授業科目について、オンライン対応をしています。

多様なプログラムを2つのキャンパスで展開

多様な学修ニーズや教育課題を踏まえたプログラムを柏原・天王寺の両キャンパスで展開しています。学びたい授業を主体的に履修することで、自らのアイデンティティを形成しやすくなっています。

仲間と出会える

連合教職大学院には、現職の指導主事や、また学部卒業生も在籍しています。学校間、校種間、教科間、さらには世代を超えた教職大学院生同士の多種多様なつながりが生まれます。そのつながりは、校種間連携や教科横断的な視野を広げるだけにとどまらず、在学時はもちろん、修了後においても、お互いを支え合い、学び続ける仲間となります。

フラッグシップ大学特例領域科目の設置

フラッグシップ大学特例領域科目と関連させた研究科共通科目を設置しています。学部との接続や、現代的な教育課題を反映させた授業を、多様な背景を持つ院生が協働的に学ぶ貴重な機会の提供となっています。

専修免許状を取得できる

連合教職大学院では、幼・小・中・高・養護・特別支援(視・聴・知・肢・病)の専修免許状を取得することができます。取得のためには、①取得しようとする専修免許状にかかる一種免許状を有していること、②取得しようとする免許状の課程認定を受けた授業科目を24単位以上修得すること、の2つの条件を満たす必要があります。

教職修士(専門職)の学位を取得できる

連合教職大学院に2年以上在籍(長期履修制度を利用した場合は3年)し、所定の科目を46単位以上修得のうえ修了することで、教職修士(専門職)の学位を取得することができます。

2年間で300時間以上の学校実習

学校現場での体系的かつ長期の実践経験を、子どもたちと関わりながら積み上げることができます。学部卒業生は、学部段階での教育実習とは異なり、授業の実施だけでなく、学級経営、生徒指導、教育課程編成をはじめ、学校の教育活動全体について総合的に体験し、考察することができます。現職教員院生は、授業で学んだ理論を勤務校園等における組織的かつ長期的な実習を通して検証することが可能です。

学校心理士の資格認定審査に申請が可能

令和2年度より、学校心理士の申請類型に、教職大学院類型が加わり、教職大学院修了者及び修了見込み者も学校心理士の資格認定審査に申請することが可能となりました。詳細は、学校心理士認定運営機構のウェブページをご確認ください。

大阪教育大学連合 教職大学院の魅力

現職教員院生

自らの経験に確かな理論を

これまでの教職経験で培った実践的知見と教職大学院での先進的な教育研究に基づく理論的な知見とを統合させることで、理論に裏付けられた教育実践力を身につけることができます。これにより、自らの実践の優れた点については確かな根拠を以てより一層伸ばしていくことが可能となり、また課題点についても理論に基づいて具体的に改善していくことが可能となります。

学びを実践に生かせる

協働的な学び、ICTを活用した授業、生徒指導など、教職大学院での学びをすぐ自身の授業や指導に生かすことができます。先進的な研究や理論に基づく教育実践を学校現場で展開していくことによって、幼児・児童・生徒の資質・能力を高めることができます。

勤務しながら学べる

現職教員院生は、オンライン授業への参加で修了をめざすことができます(学校実習科目等の一部を除く)。2年で修了するのが困難な方を対象とした長期履修学生制度を活用し、3年かけて学ぶことが可能です(審査があります)。

勤務校園等が抱える課題解決に挑む

勤務校等の教育課題等を踏まえた実践課題研究テーマを設定し、教職大学院での2年間の学びの中で、同僚との協働や、大学教員が勤務校園等を訪問しての助言・指導等、勤務校園等・教職大学院生・大学教員のチームで、勤務校園等が抱える教育課題の解決に挑みます。

現職教員院生の学校実習科目が一部免除

現職教員院生は、定められた手続きにより、1年次前期「基本学校実習I・III(特別支援)」の履修が免除されます。また、後期「基本学校実習II・IV(特別支援)」の履修を免除することができます。

ストマス等院生

教職に関してより深く勉強できる

連合教職大学院では、その名の通り、教職に関する科目を多数用意しています。学部卒(特に教育学部でない学部)の方は、深い教職専門性を培うことができます。

教員採用試験が一部免除に

自治体によっては、教職大学院生に対して教員採用試験における試験の一部免除や、教職大学院卒としての学内推薦の制度を利用することができます。

教員採用試験の支援

試験対策の一環として、筆記試験だけでなく、集団討論・面接、模擬授業・場面指導等の対策講座を実施しています。

名簿登載期間の延長措置が可能

自治体によっては、入学前及び在学中に教員採用試験に合格した場合、申請手続きを行うことで、名簿登載期間の延長措置が可能です。※名簿登載期間の延長がない自治体でも、採用試験の一部免除が可能な場合があります。

1年を通じて学校現場と関われる

学校実習の一環として、児童生徒等や教職員と交流し、実習先の様々な教育活動及びその補助に携わることで、子どもの変化や成長の様子を長期的に捉えることや、組織の同僚との協調性を身につけること等をねらいとしています。学部での教育実習では体験できない学びと言えます。

仲間と切磋琢磨できる

グループでの学習や討論、実習の振り返りに利用できる協働学習室を備え、様々な学習の形に対応しています。



対面・オンライン授業の両方で受講

【講師勤務していない】

学修課題

中学校特別支援学級における「自分の気持ちを相手に適切に伝える方法」の授業実践

眞西 愛美さんの場合 学部卒院生(M2)(京都女子大学卒)

8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時	20時	21時
授業曜日	起床	趣味の時間			授業の課題を行う、教員採用試験の勉強			大学へ移動	6限 授業 18:00~19:30	7限 授業 19:40~21:10	帰宅 就寝		
実習日	実習開始 8:00	実習終了 16:30			帰宅・休憩			移動	バイト(塾講師)				

M1の5月末から6月あたりに学校実習が始まります。

私は公立中学校で実習を行っています。学部時代とは異なり、それぞれの研究テーマに合わせて、授業実践やインタビュー調査など人により様々です。また、2年間で300時間にわたる実習に取り組み、学部時代より深い学びを得ることができます。

M1前期では、通常学級と特別支援学級の授業を見学し、「生徒理解」や「学校理解」を進めながら、研究対象を絞り込みました。

後期では、実習校及び大学院の指導教員と相談し、特別支援学級での学習サポートをしながら、「生徒たちが今何に困っているのか」を観察し、M2で行う実践課題研究に向けた計画を立てました。

その他にも、生徒や先生方との信頼関係を築くことができ、「昨日、『先生、今日来ないの?』と生徒が話していました」と実習校の先生からお聞きしたことがとても印象に残っています。学校実習は、最初はとても緊張して不安なこともありましたが、研究だけではなく、教員として必要な力や大切なことを学べる貴重な時間だと思います。

学校実習のスケジュール

■ 8:00~	実習開始
■ 8:55~ 9:45	1限 授業見学・補助
■ 9:55~10:45	2限 授業見学・補助
■ 10:55~11:45	3限 授業見学・補助
■ 11:55~12:45	4限 授業見学・補助
■ 12:55~13:40	昼休み
■ 13:40~14:30	5限 授業見学・補助
■ 14:40~15:20	6限 授業見学・補助
■ 放課後	特別支援学級にて連絡帳の返却/指導教員や特別支援学級の先生への質問/実習ノートの記入
■ 16:30	実習終了

大学院の授業では、授業ごとにレポート課題や振り返りを書く課題などがあります。大学院の授業は、1科目2コマがほとんどで、集中講義では1日に4コマ行われることもあります。学部時代より授業内容が高度で学習量も多いため、レポートや振り返り課題には時間がかかりますが、将来教員として働く上で、とても重要な知識なので、時間をかけることで、より知識が定着していると感じます。私は、日中の空き時間に課題を行います。レポート課題で文献を読む必要がある場合は、日中に大学図書館に行くこともあります。図書館は教育関係の蔵書がとても多く、課題がとても捗ります。その他にも、協働学習室でゼミの友達と勉強をしたり、指導教員の研究室にお邪魔して先生に色々教わったりすることもあります。

また、教員採用試験の勉強もこの日中の時間に行っており、過去問を中心に繰り返し行っています。大学院で学んだことが、採用試験の過去問で問われていることもあるため、日々の授業はとても貴重な時間であると考えています。

教職大学院の授業は、日中にあるものと夜間にあるもの、Zoomによるオンラインのみの授業やオンラインと対面のハイブリッドの授業など様々な形があります。私は前期では、日中に授業がある柏原キャンパスと、夜間に授業がある天王寺キャンパスを併用していました。柏原キャンパスでの対面は、学部からストレートで進学してきた「ストレートマスター」(以下「ストマス」という)がほとんどで、夜間は現職教員(以下「現職」という)の方が多くいらっしゃいます。

対面授業について、柏原ではストマス同士で、「学校実習、どう?」「課題難しくない?どう書いた?」など気軽に話すことができ、天王寺では現職の方から現場のリアルな話を聞くことができ、どちらもとても良い学びができます。最初は、現職の方とのグループワークは緊張しましたが、とても優しく話しやすい方ばかりです。授業によっては様々な学びを深めている方と一緒にすることもあり、異なる視点での学びを共有することもポイントだと思います。

一方、オンライン授業は移動時間が無く、授業時間前まで自分の時間を過ごすことができるという利点があります。移動時間が無いため、授業終了後すぐに課題に取り組むことができるのもポイントです。



対面・オンライン授業の両方で受講

【講師勤務している】

学修課題

カリキュラム内外における安全対策の実態と課題から考える学校安全の再検討

松井 大河さんの場合 学部卒院生(M2)(大阪教育大学卒)

8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時	20時	21時
授業曜日	1限 授業 8:50~10:20	2限 授業 10:35~12:05	昼休み	3限 授業 12:55~14:25	4限 授業 14:40~16:10	5限 授業 16:25~17:55	6限 授業 18:00~19:30	7限 授業 19:40~21:10					
実習日	勤務校で非常勤講師(8:30~12:30)			勤務校で下校指導(14:00~17:00)			教育評価の理論と実践						
実習日	実習開始 8:00			実習終了 14:00			勤務校(実習校)で下校指導(14:00~17:00)						

私は現在、勤務校において実習を行っています。学部時代の基本実習とは異なり、2年間で300時間におよぶ実習に取り組むことで、より具体的な学びを得ることが可能です。

ターム2では、自ら設定した具体的な目標に基づき、「児童理解」と「学校理解」に重点を置いて実習に取り組み、普段の勤務とは異なる学年で児童の実態把握に努めました。特に、勤務校が文部科学省の指定を受けて独自に設定している「未来探究科」では「安全・安心」をテーマに探究活動が行われており、私の研究テーマである「学校安全」との関連を意識しながら、次年度の実践に向けた準備を進めることができました。

ターム3では、自身の教員としての成長を目的として社会科の授業実践を行い、ターム2で把握した児童の実態をもとに教材を開発し、授業を実践できたことは大きな経験となりました。

勤務校での実習では、日常の勤務と実習とを区別して意識するために、毎回の実習において目的を明確に設定することの重要性を実感しました。自身の研究テーマと向き合いながら現場に入ることができる点は、教職大学院の実習ならではの魅力だと感じています。

学校実習のスケジュール

■ 8:00~	実習開始
■ 8:35~ 9:25	1限 授業見学・補助
■ 9:35~10:25	2限 授業見学・補助
■ 10:35~11:25	3限 授業見学・補助
■ 11:35~12:25	4限 授業見学・補助
■ 12:25~13:45	給食・昼休み・掃除 補助
■ 13:45~14:00	モジュール 授業見学・補助
■ 14:00	実習終了
■ 14:00~17:00	下校指導(勤務)

私は学部時代に先取り履修制度を利用して、大学院の単位をすでに10単位修得していました。そのため、現在は履修しなければならない授業数が少なく、時間的なゆとりがあります。この時間を活用して、実習先で非常勤講師として週8時間の授業を担当するとともに、スクールサポーターとして週12時間の下校指導に携わっています。

非常勤講師をする中では、児童の実態を直接把握しつつ、授業づくりの難しさややりがいを日々実感し、下校指導では、教室外での児童の様子や人間関係、安全面への配慮など、授業だけでは見えにくい側面にも目を向けることができます。こうした多面的な関わりを通して、児童理解や学校理解が深まっていると感じています。

大学院の授業は、夜間やオンライン等で受講でき、自身の生活や勤務との両立が可能であり、柔軟に学びを進められる点に魅力を感じています。

大学院での学びと現場での実践を並行して行うことで、理論と実践の往還が生まれ、理解がより深まっていることを実感しています。実習先で勤務することは、一人の教員として学校運営や教育活動に関わる責任を自覚することにもつながっています。日々の業務の中で課題を見だし、改善に向けて試行錯誤する経験を積み重ねることで、実践課題研究をより具体的に実効性のあるものとして進めることができている。

「教育評価の理論と実践」の授業では、評価に関する理論的背景や歴史の変遷を学ぶとともに、指導と評価を一体的に設計する力を養います。授業では、コンテンツベースの発想ではなく、子どもに発揮させたい力から出発するコンピテンシーベースの考え方や逆向き設計の重要性について学びました。適切に評価できるパフォーマンス課題やルーブリックを設定することで、評価が単なる結果の測定ではなく学習を支える役割を持つことを実感しました。

また、院生同士で指導と評価の計画を発表し合い、助言し合う活動を通して、現職教員の実践的な視点や多様な教育観に触れることができた点も大きな学びでした。実際の子どもの姿を想定した現実的な計画と、理想の教育像に基づく柔軟な発想の双方の重要性を認識し、自身の授業設計を見直す契機となりました。さらに、児童が主体的に課題に取り組むためには、課題自体が生活や社会と結び付いた「切実性」をもつ必要があることを学び、評価は学びを方向付ける営みであることを理解しました。

本授業を通して、将来教員としてどのような評価を行うべきかを具体的に考えるとともに、理論と実践を往還しながら自らの授業観・評価観を深めることができました。

【単元設定の理由】②単元観



コンテンツベースではなく、コンピテンシーベースから発想



対面・オンライン授業の両方を受講

【大阪府在住】

学修課題

幼稚園における「プレイング・マネージャー」 としての主任の役割についての研究 ークラス運営と園全体のマネジメントを両立させるためにー

三宅 理恵さんの場合 現職教員院生(M2) (兵庫教育大学卒)
大阪市立日吉幼稚園

	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時	20時	21時
授業曜日(勤務日)			保育時間							分掌業務	移動	6限 授業 18:00~19:30	7限 授業 19:40~21:10	帰宅・家事 課題・就寝
実習日	実習開始 8:30				実習終了 17:00									
休日	朝に課題に 取り組む。	家族と過ごす時間、 趣味に打ち込む時間		家族と過ごす時間、 自分の時間								課題に 取り組む		

授業のレポートや課題は、休日の朝か、夜に取り組むことが大半です。私には、6歳になる子どもがおり、平日は、ゆっくり話をする時間が取れないことも多いので、休日は、子どもと共に出掛けたり、食事をとったりすることを重視しています。そのため、子どもが寝ている時間に課題に取り組むことが多いです。課題は、自分の実践を振り返る内容のものが多く、自分の教育観を見直す機会となっています。

休日は、家事、育児、課題、仕事の準備などで多忙ですが、自分へのご褒美時間として「マッサージを受ける」時間を設け、お気に入りのサロンや自宅で、自分メンテナンスを楽しんでいます。凝り固まった体がほぐれると、心も軽やかになり、「明日もがんばろう」という気力が湧いてきます。教職大学院進学後、自分時間をマネジメントすることが上手になった気がします。

このような状況のもと、働きながら教職大学院に通うことで、家族や職場の協力を受けられること、健康な自分でいられること、学ぶ環境があることのある人との出会いが、今の自分をつくっている要因になっていると実感しています。



私は、幼稚園で、担任をもちながら、他クラスの状況を把握したり、園長の園運営に関する補佐をしたり、地域と連携を図ったりする主任(ミドルリーダー)として、カリキュラム・マネジメントに関わっています。

教職大学院では、カリキュラム・マネジメントに関する授業を多く受講でき、中でも、ミドルリーダーとして、どのように園運営に関わっていくかを「カリキュラムの編成原理とマネジメント」の授業で学ぶことができました。授業の中で、「カリキュラム・マネジメントモデル」を学び、勤務園の課題を分析し、「教育目標」「PDCAサイクル」「学校文化」などの要因の相互関係を見出すことができ、ミドルリーダーとして、リーダーシップを発揮する点が明確となりました。また、「リーダーシップ」という言葉も、先頭を走るイメージをもっていましたが、「スクールリーダーシップの理論と実践」の授業受講後は、リーダーシップにも種類があり、周囲の人々との関係性を重視する必要性を感じました。日々、自身のリーダーシップについて、実習記録で振り返り、学んだ理論を実践につなげることで、園運営の見方・考え方の変容を実感しています。

授業は、対面かオンラインを選択して受講することができます。私は、自宅から勤務園まで、自転車で25分程度かけて通勤しています。勤務園から教職大学院までさらに自転車で25分程度、教職大学院から自宅まで25分程度かけて帰宅しています。1人の自転車タイムは、自分を振り返ったり、気分転換をする貴重な時間です。さらに、仕事などが多忙な日は、オンラインに切り替え、移動時間を短縮することにより、時間をつくることも可能です。教職大学院の先生方は遅刻や欠席などにも対応してくださり、現場で働いている先生も学びやすい環境が整っています。

私は、所属が幼稚園ということもあり、教職大学院で、幼稚園以外の先生方とディスカッションする機会がとても興味深く、学びが多いです。小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、行政など、それぞれの立場でのカリキュラム・マネジメントの考え方や文化の違いに触れることができ、自身の視野がぐんと広がります。またそこに、専門性の高い大学の先生方からの話を加えると、さらに自身の学ぶ意欲が増します。教職大学院の授業の中で紹介された本や論文は、一度は手に取って読むようにしています。自分が手に取ったことのない分野の本や論文もあり、これらを今後読み進めていくことも楽しみの一つとなっています。



オンライン授業のみの受講

【愛知県在住】(遠距離)

学修課題

医療療育センターで生活する 重度・重複障害児の自立活動の授業改善

前田 直美さんの場合 現職教員院生(M2) (愛知教育大学卒)
愛知県立岡崎特別支援学校

	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時	20時	21時
授業曜日(勤務日)			分掌業務、授業時間				休憩時間	分掌業務、 授業時間	会議、授業の準備 医療職との連携等	移動	6限 授業 18:00~19:30	7限 授業 19:40~21:10	就寝	
実習日	実習開始 8:15				実習終了 16:45									
休日	8時までに 課題に取り組む。	家族と過ごす時間、 趣味に打ち込む時間		家族と過ごす時間、 自分のための時間										

授業ごとにレポートや実践に基づく課題が設定されており、自身の実践を改めて言語化し、見直す貴重な機会となっています。授業によっては、グループでの教材作りなどの課題もあり、自分にはない視点をすることもできます。課題の多くは、日々の教育実践と直接つながる内容であり、学びがそのまま現場へと還元されていくと感じています。

私は主に休日の早朝や移動時間を活用して課題に向き合い、実践記録を整理したり、教職大学院で得た視点を自分の授業に当てはめて考えたりしています。急な業務などで、どうしても同時双方向のオンライン授業に参加できない場合、事前に申し出を行うことで代替措置等の救済措置がしっかりと用意されているため、多忙な現職教員でも安心して学び続けることができます。また、指導教員の先生方の手厚いサポート体制があり、遠方である愛知県の勤務校まで、指導教員の先生が直接出向いてくださり、現場の状況を踏まえた上で、個別で丁寧な指導や助言をしていただけます。オンラインの利便性と、対面でのきめ細やかなサポートは、仕事と生活のリズムを大切にしながら、学び続けることのできる環境だと実感しています。

特別支援学校で肢体不自由や病弱の児童生徒と向き合い、教員として多くの経験を積んできました。現在は医療療育センター内の施設内学級で、入院生活を送る子どもたちと関わっています。充実した日々を過ごす一方で、これまでの経験を振り返り、これからの自分に何ができるかを問い直すようになりました。「もっと学んで、専門性を高めたい」という強い思いを抱き、教職大学院への入学を決意しました。

教職大学院での学びは、まさに「理論と実践の往還」です。特別支援教育コースでは、インクルーシブ教育システムの観点から、授業のユニバーサルデザイン化や発達障がい児への対応など、現代的な課題に即応できる実践力を深めることができます。さらに、コースの垣根を越えて「外国にルーツのある子どもの教育」も受講でき、国籍や文化などの多様な背景をもつ子どもへの支援アプローチを学べたことは、現場での大きな力となっています。日々の業務に追われる中でも、大学院で得た最新の知見を翌日の教育実践にすぐ生かし、リアルな課題をゼミで共有して学術的な視点で解決策を練る。このサイクルにより経験則にとどまらない確かな専門性を身につけることができます。遠方の現場にいながらにして、日々の業務そのものが深い研究フィールドになることは最大の魅力です。

授業は、基本的に対面かオンラインのどちらかを選択して受講することができます。愛知県から大阪の天王寺キャンパスへ通うことは物理的に厳しいですが、大半の授業をオンラインやオンデマンドで受講できるため、遠方からでも無理なく学べる環境が整っています。

どの授業も新たな学びに溢れています。先生方の深い専門性と最新の知見に基づくお話しは、学校現場の出来事と結びつき、翌日から現場で活用できるものも多くあります。オンラインでもブレイクアウトルームを活用したディスカッションがあり、多様な考え方を学ぶことができます。幼稚園から高等学校、特別支援学校、教育委員会など、普段は一緒に働くことのない経歴やバックグラウンドをもつ人々からお話をうかがえるのも大きな魅力です。

また、「実践課題研究(ゼミ)」では、専門の先生が指導教員となり、勤務校での実践について直接指導と助言をいただけます。同じ関心をもつ大学院生と、現場での実践報告を共有し合える、とても楽しく有意義な時間になっています。





修了生からのメッセージ・恩師からの応援メッセージ

現場で活躍する教職大学院修了生4人に、連合教職大学院での学びや思い出などを語ってもらいました。

① 印象に残る連合教職大学院での学び

② 主指導教員との思い出

③ 修了後の実践・展望

④ 入学希望の方へのメッセージ



修了生

ストマス等院生

上垣内 大揮さん

勤務先／大阪府立生野高等学校

- ① 大学院では教科の仲間同士で読書報告会をしていました。教育に関わるものから趣味のものまで、多くの本を読み、仲間と語り合った経験が教師となった今も授業づくりや対話的な学びを支える土台として確かに生きています。
- ② 先生との思い出はゼミでアップルパイを食べたことです。先生には嬉しい言葉も大切な言葉も厳し〜い言葉もいただきましたが、何よりゼミでお茶をしながらゆったり過ごす時間が好きでした。
- ③ 修了後も生徒達との学びの中で、人と、自分と向き合う力を育てることの大切さを強く感じ、研究テーマであったリーダーシップ教育を少しずつ実践しています。
- ④ 自分にとっての大学院は入学時、漠然と感じていた『実力不足』を言葉にし、仲間と共に向き合うための学びの場でした。その向き合ってきた2年間で教壇に立つ勇氣が変わっていると強く思います。私と同じように不安を抱えている方は是非、教職大学院への進学を考えてみてほしいです。

応援メッセージ

上垣内大揮さんが、「理論と実践の往還」を実践的に学ぶ環境をポジティブに受け止め、充実した学校実習や課題研究に昇華させている様子を、頼もしく感じていました。大学院修了後も、勤務校でその成果を踏まえ、実践し続けている姿は、確実に後輩にも伝わっていると信じています。

教育にも研究にも、緊張と緩和のバランスが大切です。頭と気持ちを切り替えたり、新しいアイデアを創造したりするとき、ティータイムが有効であることは既に習得済みですね！これからも、時間と、お金と、情報のマネジメントを忘れずに、丁寧な生き方を貫いてください。



元主指導教員
鈴木真由子先生

所属：
健康安全教育系



修了生

現職教員院生

鳥飼 正葵さん

勤務先／大阪市立長吉中学校

- ① 教職大学院在学中は、学校規模ポジティブ行動支援（SWPBS）による中学生の心理・行動面への効果を検証しました。研究を通して、日々の実践をデータと理論を手がかりに振り返り、改善へつなげる視点を学びました。また、海外の研究者や実践校との交流から、学校現場を支える仕組みという視点の大切さを実感しました。
- ② 現場での実践や研究が思うように進まない時期もありましたが、私の研究の目的を大切にしながら支えてくださった主指導教員の庭山和貴先生の存在は大きな励みでした。私も誰かの挑戦を支えられる存在でありたいと思うようになりました。
- ③ 現在は大阪教育大学博士後期課程に進学し、SWPBSと認知行動療法に基づくメンタルヘルス予防プログラムを統合し、不安や抑うつなどの内在化問題への効果を検証しています。
- ④ 働きながら学ぶことは容易ではありませんでしたが、実践を理論的に整理する経験は、自分の指導をより根拠あるものへと深めてくれました。学び続けたい方にとって、確かな支えとなる環境です。

応援メッセージ

鳥飼正葵さんは、教職大学院在学中から現場での実践と研究を高い水準で両立させてきました。中学校教員としてフルタイムで勤務しながら、学校規模ポジティブ行動支援（SWPBS）の効果検証に粘り強く取り組み、データに基づいて実践を改善し続けてきました。研究が思うように進まない時期にも、生徒のためにという目的を見失わず、着実に進めてこられた方です。

現在は博士後期課程に進学し、SWPBSにメンタルヘルス予防プログラムを統合するという、世界的に見ても先進的な研究課題に挑戦しています。今後も実践と研究の往還を重ね、学校現場の子どもたちと先生方にその成果を還元していかれることを期待しています。



元主指導教員
庭山 和貴先生

所属：
総合教育系



修了生

ストマス等院生

成本 光さん

勤務先／大阪市立住吉幼稚園

- ① 実習先の中学校では、心の健康課題や特別支援、不登校など、様々な背景を持つ生徒と出会いました。教職大学院で学び、実習先で実践し、実践課題研究で省察・考察を繰り返したことで、子ども理解を深める力や必要な支援に繋げる力、自分の実践を振り返る力を身につけることができました。
- ② 平井先生とは、研究や授業の合間に一緒におやつを食べたり、お互いが好きな推しの推しポイントを語り合ったりしていました。大阪に知り合いがいなかった私には、楽しくて癒しの時間でした。
- ③ 幼稚園では、毎月養護教諭による保健教育をします。文字をまだ読めない幼児や支援が必要な幼児が多いため、どの幼児も楽しみながら興味を持てる教材づくりに努めてきました。今後は、心の健康課題を持つ幼児の支援に力を入れています。
- ④ 教育現場で働く中で、大学院や実習先で学んだことを生かす場面がいくつもあり、教職大学院に進学して本当に良かったと思っています。入学を迷っている方は、ぜひ教職大学院で学ぶことをおすすめします！

応援メッセージ

成本さんは大学4回生の時に、当時の指導教員からのご紹介で本学連合教職大学院への進学を検討されていました。まだコロナ禍にあった時期ですが、直接話を聴きたいと、埼玉県から会いに来てくださったことをよく覚えています。

初対面の時から、成本さんの子どもを支援する思いと、集中力の高さを感じていました。子どもを深く理解し、養護教諭の専門性を生かすように支援するか…それを探究する学びの日々には、現職教員院生も唸るほどの学修成果と、誰にも愛される成本さんらしさが輝いていました。

みごと、大学院生として教員採用試験に現役合格を果たされ、今では幼稚園の養護教諭として活躍です。幼稚園の保育はとても大切な教育活動です。幼稚園の養護教諭として、自分らしく、笑顔で、これからも輝いてください。



元主指導教員
平井 美幸先生

所属：
健康安全教育系



修了生

現職教員院生

上村 仁師さん

勤務先／茨木市立天王小学校

- ①～④ 「あなたの夢は何ですか？」
教頭として5年。ふと問われた時、私は答えに詰まりました。「自分はこの仕事を通して何がしたいのか」を明確にしたい。それが私の大学院進学のかっけです。校長の方針を具現化しつつ、現場を支えたい。改革を進めたいが、職員との温度差に悩む…。多職種協働が求められる今、学校の要である管理職の役割はかつてないほど重要です。
そんな中、本大学院は「実践と理論を往還する」ための最高のサードプレイスでした。2年間の「実践課題研究」では、自校を対象としたアクションリサーチを行い、講義の知見を即座に現場へ還元できました。多忙な日々でしたが、ゼミでの指導教員からの問いや励まし、在学中の異動に寄り添う柔軟な支援は、学びを止めない大きな力となりました。また、校種や役職を超えた仲間との対話や絆は、私の視野を大きく広げる一生の財産となりました。
修了した今、私は「次世代を担う子どもたちを育みたい」という原点を再確認し、進むべき道を確認しています。
ここでの挑戦は、あなたの夢を磨き、子どもたちの未来を創る確かな力になります。ぜひ、新たな一歩を踏み出してみませんか。

応援メッセージ

上村さんは、教頭職として入学されました。2年間の大学院での生活の中で、校種の違う教員や地域の異なる教員、世代の異なる教員と多くの交流をし、学んでこられました。自身が設定されているテーマ以外にも、授業内容で多くのことに対して自身の職務との接点を見出し、学んだことを職場で活用したり、所属校の教員に伝えたりなどの経験をたくさん話していただきました。

上村さんの勤務地はキャンパスから遠いため、大学院で学ぶことはこれまでできませんでした。本学が「オンラインだけでも修了できる」とした際の初めての院生として入学してくださったことはたいへん嬉しく、今後上村さんのような方がたくさん入学してくれたらと思っています。

修了後も、「学び続ける」ということをストップさせずに、連合教職大学院を利用してもらえたらと思っています。上村さんも修了生同士で引き継ぎつなぐを深めて、つながらず先導していただければと思います。



元主指導教員
寺嶋 浩介先生

所属：
総合教育系

就職支援



キャリア支援センターによる教員採用試験の充実したサポート体制を整えています。

Support 1 筆記試験対策講座

筆記試験対策講座を講義形式で実施

Support 3 教育委員会による採用説明会

各教育委員会関係者が大学で採用説明会を実施
試験の詳細や変更点を聞くことが可能

Support 5 実技・面接対策講座

水泳・音楽・器械運動など実技試験、集団討論・面接、模擬授業・場面指導の対策講座を実施

Support 2 面接試験対策講座

面接試験に必要なノウハウ・テクニックを身につけることが可能

Support 4 私立学校教員採用説明会

私立学校人事担当者が本学で説明会を実施
各学校の採用予定や特色を聞くことが可能

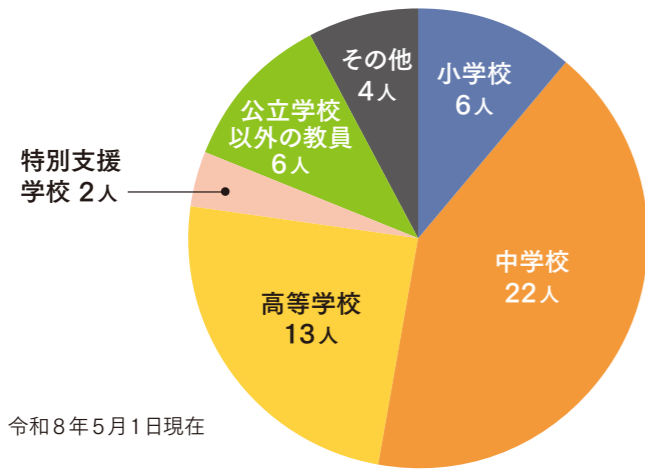
Support 6 専門アドバイザーによる相談

専門アドバイザーによる教員採用試験相談を実施

進路状況

令和7年度修了者の就職状況(53人)

※現職教員として在学した者を除く



令和8年5月1日現在

教員採用試験の採用候補者名簿掲載期間の延長について

教員採用試験を受験し最終選考まで合格した人に対し、教職大学院に進(在)学し専門職学位課程修了後の採用を希望する場合において、採用候補者名簿掲載期間を最長2年間延長できる制度を設けている自治体が複数あります。
※延長制度の有無や詳細については、受験を希望する自治体の採用試験実施要項を確認してください。



Pick Up

◆科目等履修生制度

正規の教職大学院生の他に、連合教職大学院の正規の授業を聴講して単位を修得する制度です。1年間に8単位まで履修することができます。教員免許状の取得に必要な科目の履修や特定のテーマについて専門的に学びたい場合にご利用ください。また、本制度により修得した単位は、正規教職大学院生として入学した際、既修得単位として認められます。

◆授業公開

連合教職大学院では、年間を通じて授業を公開しています。連合教職大学院での学びをぜひ一度体験してください。詳細は連合教職大学院ウェブページにてご確認ください。

学費・奨学金



■入学料・授業料

令和8年度入学	入学料 ※1	授業料(年額)
大学院	282,000円	535,800円
大学院(長期履修学生制度の適用者) ※2	282,000円	357,200円

上記金額は、令和8年度入学者の金額であり、令和9年度入学者については、変更される場合があります。

※1 入学の際には、入学料のほか、別途入学時諸費用がかかります。

※2 長期履修期間3年の場合の授業料金額です。長期履修期間によって授業料金額が異なります。

授業料等免除制度

一般選考	経済的理由により入学料・授業料の納付が困難であり、かつ、成績優秀と認められる方を対象に選考のうえ、入学料・授業料の全額または半額が免除あるいは徴収が猶予されます。
入試成績優秀者に対する特別授業料免除	本学教職大学院に入学する方のうち、本学入学試験の成績が優秀であると認められる方を対象に選考のうえ、入学年度の前期授業料の全額が免除されます。

※ 免除または徴収猶予の適用を受けるためには、各種要件があります。

専門実践教育訓練給付金

連合教職大学院では、厚生労働省指定の教育訓練給付金制度の専門実践教育訓練講座に申請中です。ご自身でローワークでの手続きが必要です。

※本制度は、国立・私立学校の現職教員等が対象となる可能性があります。

※ただし、原則、長期履修制度を利用する場合、専門実践教育訓練給付金の申請はできません。

※制度の詳細については、厚生労働省のウェブサイトをご確認ください。



■長期履修学生制度

標準修業年限(2年)で修了することが困難な方を対象に、修業年限を延長することにより計画的に教育課程を履修することができ、かつ、その間の授業料の年額の負担を軽減することができます。

長期履修学生としての申請に基づき審査を行い、許可された場合修業年限を3年とします。修学状況等の変動により、標準修業年限への短縮や、入学後(在学中)の長期履修の申請も可能ですが、この場合、1年次の所定期日までに申請を行い、翌年度からの適用となります。なお、留学など、本制度の申請資格に該当しない事由によるものは認められません。

〈申請資格〉

申請資格を有する方は、次のいずれかに該当する方です。

- ① 職業を有する方
- ② 育児、介護等の事情を有する方
- ③ その他研究科長が認めた方

〈授業料(年額)〉

$$\frac{\text{大学が定めた授業料年額} \times \text{標準修業年限(2年)}}{\text{長期履修期間(3年)}}$$

■奨学金制度

学業成績が優秀で、経済的理由により学資の支弁が困難の方には《日本学生支援機構奨学金》または《一般奨学金》の制度があります。一般奨学金には、大きく分けて地方公共団体の奨学金と民間育英団体の奨学金とがあります。

(参考) 令和8年度入学者 日本学生支援機構奨学金の貸与月額例

奨学金の種類	貸与月額
第一種奨学金(無利子)	50,000円・88,000円のいずれかより選択
授業料後払い制度 (無利子・在学中は授業料を納付せず、修了後の所得に応じて後払いする制度)	・授業料相当額(年間535,800円が上限) ※日本学生支援機構から大学に直接支払われます。 ・生活費奨学金(20,000円・40,000円のいずれかより選択) ※生活費奨学金のみの貸与を受けることはできません。
第二種奨学金(有利子)	50,000円・80,000円・100,000円・130,000円・150,000円のいずれかより選択

上記金額は、令和8年度入学者の金額であり、令和9年度入学者については、変更される可能性があります。

第一種奨学金(無利子)及び授業料後払い制度については、「特に優れた業績による返還免除制度(『教員になった者の奨学金返還免除制度』を含む)」があります。

また、入学予定者を対象とした「特に優れた業績による返還免除内定制度」があります。

入試情報



令和9年度入試日程

	入 試 日	合 格 発 表
1次募集	令和8年9月5日(土)	令和8年9月11日(金)
2次募集	令和8年11月29日(日)	令和8年12月4日(金)
3次募集	令和9年2月7日(日)	令和9年2月12日(金)

※上記入学試験で定員に満たない場合は4次募集[令和9年2月28日(日)]を実施する場合があります。

選抜方法

【推薦選抜】

入学者推薦選抜は、口述試験、学修計画書及び成績証明書を総合して行います。

●推薦選抜の対象

- 連合教職大学院構成大学(大阪教育大学、近畿大学)(以下、「連合構成大学」という。)における学内推薦制度により受験する者
- 教師の養成・採用・研修にわたる連携協力に関する覚書に基づく他大学からの推薦により受験する者
- 大阪教育大学連合教職実践研究科先取り履修制度により受験する者※
- 所属する教育委員会または学校園等の所属長による推薦書を提出し、受験する者(ただし、学校園長は、任命権者である教育委員会が作成した推薦書とします。)
- 大阪教育大学附属学校園内地研修員制度により受験する者
- 連合構成大学を除く教職課程を持つ大学の卒業見込の者で、学力成績が優秀で、大阪教育大学大学院連合教職実践研究科への進学を強く希望し、アドミッション・ポリシーに合致しているとして、所属の大学長(又は学部長)が責任をもって推薦する者(ただし、推薦できる人数は各学部において各募集2人までとします。)

※本研究科の先取り履修生として許可を受け、本研究科の授業を受講または受講予定で、本学学部を卒業後、引き続き本研究科に入学を希望する者

【一般選抜】

入学者一般選抜は、小論文、口述試験、学修計画書及び成績証明書を総合して行います。

入試説明会

オンラインで全体説明や受験者区分(現職教員等、現職教員等以外)別での説明を行います。詳細は大学ウェブページに掲載します。お気軽に参加ください。

令和8年6月28日(日)、令和8年10月18日(日)、令和8年12月5日(土)

三つのポリシー

ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与方針)

大学院連合教職実践研究科(連合教職大学院)は、教育委員会や学校現場との密接な連携の下での教員養成や現職教員教育を通じて、教員志望学生や現職教員学生に学校現場での課題に即応できる実践的知識・技能を拡充させるための視点と方法を獲得させ、もって学校における高度の専門的な能力及び優れた資質を有する専門職としての人材の育成を目標としています。

この目標に基づき、所定の単位を修得し、教職に関する実践的知識・技能を拡充するための省察や教育実践研究の方法論、同僚や他の教育関係者との協力や協働、学校における組織的活動の視点と方法を獲得するとともに、学校教育の制度や仕組み、教育課程、授業や教材、子どもの心理や発達と生活及びその多様性等に関する高度な専門的知識と実践的指導力を統合的に有すると認められた者に教職修士(専門職)の学位を授与します。

カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)

大学院連合教職実践研究科の教育課程は、卒業認定・学位授与の方針を踏まえ、学校教育の全体像を俯瞰できるような幅広い実践力や課題解決力や応用力を培い、教職に関する高度な専門的知識と実践的指導力を統合的に養成することを目的としています。そのため、教育職員免許法を踏まえながら、教員養成フラッグシップ大学として、指定大学が加える科目を設定した上で、次のように教育課程を体系的に編成し、実施するものとします。

- ①高度な専門性を有する教員を養成するための基礎的素養を体系的に修得する研究科共通科目
- ②変化する教育環境に対応するために、様々な教育のあり方を俯瞰的な視点で把握するための活動を展開する学校実習科目
- ③学校現場の教育課題や学習者の多様なニーズに沿って、学生が主体的に選択する専攻専門科目
- ④自ら学校実践の現場における課題を設定し、研究科共通科目、専攻専門科目、学校実習科目での学びと関連させながら学びを進め、最終的に実践課題研究報告書にまとめることを目的とする課題研究科目

- ①及び③の実施においては、主体的・対話的で深い学びを提供します。具体的には、講義に加えて、グループワーク、発表、討論等の活動を取り入れます。さらに、必要に応じて、教職経験を活かした活動を導入します。また、成績評価においては、試験・レポートのほか、グループワーク、発表、討論等の活動も重視します。
- ②及び④に関しては、調査・計画・実施・評価及び改善のサイクルを繰り返すこと、それらの過程における同僚等とのコミュニケーションや協働を重視します。

アドミッション・ポリシー(入学者受入れ方針)

1. 求める学生像

- 卒業認定・学位授与の方針に定める資質・能力を育成するために編成された教育課程を履修する学生として次に掲げる人材を広く求めます。
 - ・学校や地域が抱える教育課題の解決において指導的・中核的な役割を果たすために求められる高度で優れた実践力の獲得をめざす現職教員及び教育委員会関係者
 - ・新しい学校づくりの担い手として自ら学び続けることで実践的指導力の獲得をめざす人

2. 入学者選抜の基本方針

- 大学院連合教職実践研究科が求める学生を受け入れるために、次の大学院入学者選抜を実施します。
 - 【推薦選抜】
 - 大学院入学者推薦選抜では、「口述試験」・「学修計画書」を課します。
 - ・「口述試験」において
 - 学部卒学生等では、教員として学び続ける意欲、教職に関わる実践的な知識・技法・大学院での学修計画を特に評価します。
 - 現職教員等では、教員として学び続ける意欲を持ち、自らの教員としてのキャリアと学修計画を関連づける思考力、判断力、表現力を特に評価します。
 - ・「学修計画書」において
 - 学部卒学生等では、学部での学修を踏まえ、教員として自らが身につけるべき資質・能力を明確にし、それを学校等における教育課題と関連づけた具体的な学修計画を特に評価します。
 - 現職教員等では、所属する組織の課題を把握し、その解決のために教員として自らが高めるべき資質・能力を明確にしている学修計画を特に評価します。
 - 【一般選抜】
 - 大学院入学者一般選抜では、「小論文」・「口述試験」・「学修計画書」を課します。
 - ・「小論文」では、教職に必要とされる読解力、思考力、文章表現力を特に評価します。
 - ・「口述試験」において
 - 学部卒学生等では、教員として学び続ける意欲、教職に関わる実践的な知識・技法・大学院での学修計画を特に評価します。
 - 現職教員等では、教員として学び続ける意欲を持ち、自らの教員としてのキャリアと学修計画を関連づける思考力、判断力、表現力を特に評価します。
 - ・「学修計画書」において
 - 学部卒学生等では、学部での学修を踏まえ、教員として自らが身につけるべき資質・能力を明確にし、それを学校等における教育課題と関連づけた具体的な学修計画を特に評価します。
 - 現職教員等では、所属する組織の課題を把握し、その解決のために教員として自らが高めるべき資質・能力を明確にしている学修計画を特に評価します。

3. 入学前に学習しておくことが期待される内容

- (学部卒学生等) ・大学卒業レベルと同等の基礎学力
 - ・教職への基本的な知識・技能
- (現職教員等) ・教育全体や所属する組織の課題を理解し、課題解決をする力
 - ・組織の一員として協働して取り組む力
 - ・子ども一人ひとりを理解し、授業づくり、集団づくりを指導する力

Access



※このアクセスマップはすべての路線が記載されているものではありません。

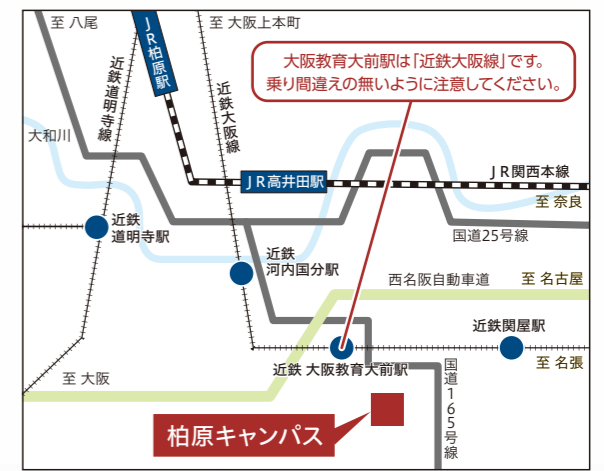
柏原キャンパス

※下図では乗り換えに要する時間は記載していません。

新大阪	4分	JR大阪	16分	約15分
大阪方面		JR大阪環状線外回り 京橋・鶴橋方面		徒歩(約1km) 大阪大名物のエスカレーターがあります。
三ノ宮	24分	JR大阪	16分	
JR神戸線新快速 大阪方面		JR大阪環状線外回り 京橋・鶴橋方面		
神戸三宮	48分			
		阪神本線快速急行		
JR京都	28分	JR大阪	16分	
JR京都線新快速 大阪・神戸方面		JR大阪環状線外回り 京橋・鶴橋方面		
丹波橋	33分	京橋	7分	
京阪本線特急 淀屋橋方面		JR大阪環状線外回り 鶴橋・天王寺方面		
大阪難波	5分			
		近鉄奈良線 大和西大寺方面		
岸和田	28分	新今宮	8分	
南海線急行 なんば方面		JR大阪環状線内回り 天王寺・鶴橋方面		
関西空港(鉄道)	33分	天王寺	8分	
JR特急はるか		JR大阪環状線内回り 鶴橋・京橋方面		
和歌山	75分	天王寺	8分	
JR直通快速 天王寺行き		JR大阪環状線内回り 鶴橋・京橋方面		
JR奈良	16分	王寺	12分	
JR関西本線 大阪方面		JR関西本線 難波方面		
大和西大寺	22分	柏原	約7分	堅下 7分
近鉄橿原線急行 橿原神宮前方面		徒歩(550m)		近鉄大阪線区間急行 名張方面
近鉄名古屋	116分	津	14分	伊勢中川 73分
近鉄名古屋線特急 大阪難波方面		近鉄大阪線快速急行 大阪上本町方面		
津	14分	伊勢中川	73分	
近鉄名古屋線 伊勢中川方面		近鉄大阪線快速急行 大阪上本町方面		

意外と近いかも!
キャンパスまでのルートが最寄りの駅から調べてください。

大阪教育大前駅から
徒歩約15分



天王寺キャンパス

※下図では乗り換えに要する時間は記載していません。

大阪教育大前	2分	河内国分	17分	鶴橋	4分	寺田町	約5分
		近鉄大阪線急行		近鉄大阪線急行		徒歩(約350m)	
大阪							
		JR大阪環状線外回り 京橋・鶴橋方面					
京橋							
		JR大阪環状線外回り 鶴橋・天王寺方面					
JR奈良							
		JR大和路快速 大阪方面					
神戸三宮	31分	西九条	16分	天王寺	約10分		
阪神本線快速急行 近鉄奈良方面		JR大阪環状線内回り 弁天町・天王寺方面		徒歩(約600m)			

大阪市内中心地 天王寺駅から約600m (寺田町駅から350m)





国立大学法人

大阪教育大学

<https://osaka-kyoiku.ac.jp/>

学務部入試課

〒582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1
TEL 072-978-3323